

長崎の林業

小曾根星堂書

「トヨペット・ネッツ ハイブリッドの森」 県営林の整備に関する協定 第3期 締結式

TOYOPET 長崎トヨペット(株)  ネットトヨタ長崎(株)  長崎県



企業の森「トヨペット・ネッツ ハイブリッドの森」締結式

5

目次

●林政だより	平成31年度ながさき森林環境税の概要……………	2～3
●特集記事	天皇陛下御在位三十年記念造林（対馬）……………	4
●林業普及だより	県北地区森林・林業の活性化に向けて……………	5
●地方だより・県央	ハランの生産に向けて（東長田生産森林組合）……………	6
●地方だより・壱岐	【島内初】壱岐の搬出間伐……………	7
●林業団体情報	NPO法人 おおむら里山村づくり委員会……………	8～9
●センターだより	九州・四国地域の若齢造林地におけるシカ被害対策の高度化……………	10
●紹介コーナー	社会福祉法人つばさ会 えぼし学園……………	11
●～企業の森～	長崎トヨペット（株）・ネットトヨタ長崎（株）……………	12



2019
No.764

木づかい推進で地球温暖化を防止しよう！

FREE

ご自由にお持ち下さい。

「長崎の林業」は、ながさき森林環境税により発行しています。
「長崎県庁」のホームページ「広報」→「県の発行物」からもご覧いただけます。

林政だより

平成31年度ながさき森林環境税の概要

森林は、水源のかん養など県民生活に必要な公益的機能を有しています。

このかけがえの無い森林を次世代へ守り引き継いでいくために、平成19年度から県民の皆様に森林整備等の費用を広く負担していただくながさき森林環境税が始まりました。

今年度から国の森林環境譲与税が始まりますが、ながさき森林環境税の用途としては、昨年度と同様の事業内容で実施します。

①未整備森林緊急整備

伐捨間伐きりすてを支援する事業です。経営計画内の森林を経営が可能な林分へ移行させていくために伐捨間伐を支援します。市町営林も事業対象です。

近年はバイオマス用材としての需要が高まってきているので、山中に残された間伐材が資源として有効活用されています。

これらのことから利用間伐へのシフトが進み、本事業の実績が減少しつつあります。

(参考資料 - ①)



森林整備状況

平成31年度事業費 168,342千円

平成31年度計画面積 400ha

②環境保全林緊急整備

県が発注する伐捨間伐の事業です。本事業では、重要とされる森林および里山の再生を図るため、天然林の整備も事業対象としています。

また、境界調査などができる調査委託も可能となっています。



里山林整備 (バッファゾーンの造成)

平成31年度事業費 110,000千円

平成31年度計画面積 200ha

③森林整備作業システム構築

間伐や間伐材の搬出に必要な路網整備費用および高性能林業機械のリースに係る経費を支援する事業です。



森林作業道及び整備された森林

平成31年度事業費 328,946千円

平成31年度計画面積 250m

④しまの間伐促進

離島から内地に出荷される間伐材の海上輸送費を支援する事業です。

平成 29 年度から対馬については別事業が利用できるようになったため、五島のみで事業が行われています。

平成 31 年度事業費 5,900 千円

平成 31 年度計画量 2,950m³

⑤ふるさとの森林づくり

(市町提案型事業)

市町や地域のボランティア活動など地域の独自性と創意工夫による取組を支援する事業です。



森林学習 - 丸太切り体験 (大村市)

平成 31 年度事業費 48,000 千円

平成 31 年度計画件数 21 件

⑥ながさ木・なごみの街づくり

木質化・木製化を支援する事業です。「民間のPR効果の高いスペース等」を対象としています。

平成 31 年度から事業要件を変更しています。県のホームページでご確認をお願いします。



床に県産木材を使用した福祉教育施設 (南島原市)

平成 31 年度事業費 20,000 千円

平成 31 年度計画件数 10 件

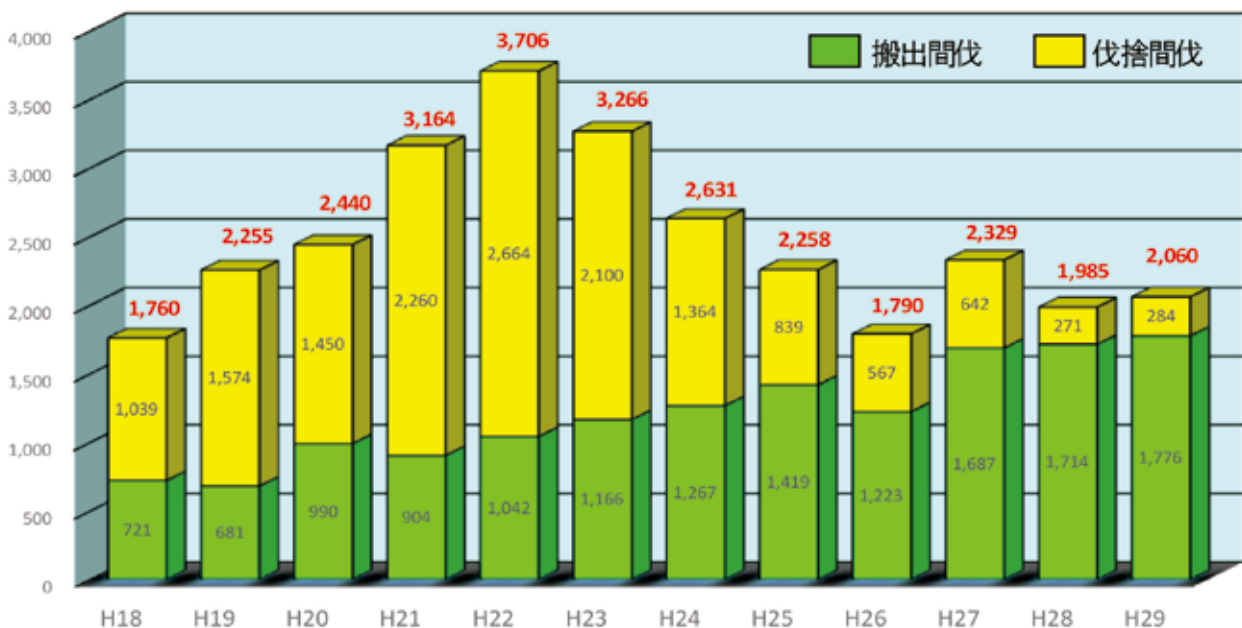
⑦県民参加の森林づくり (制度型)

森林ボランティア等で「ながさき森林環境税」の趣旨に即した活動を支援する事業です。複数の市町をまたいで活動するものを事業対象としています。

平成 31 年度事業費 3,000 千円

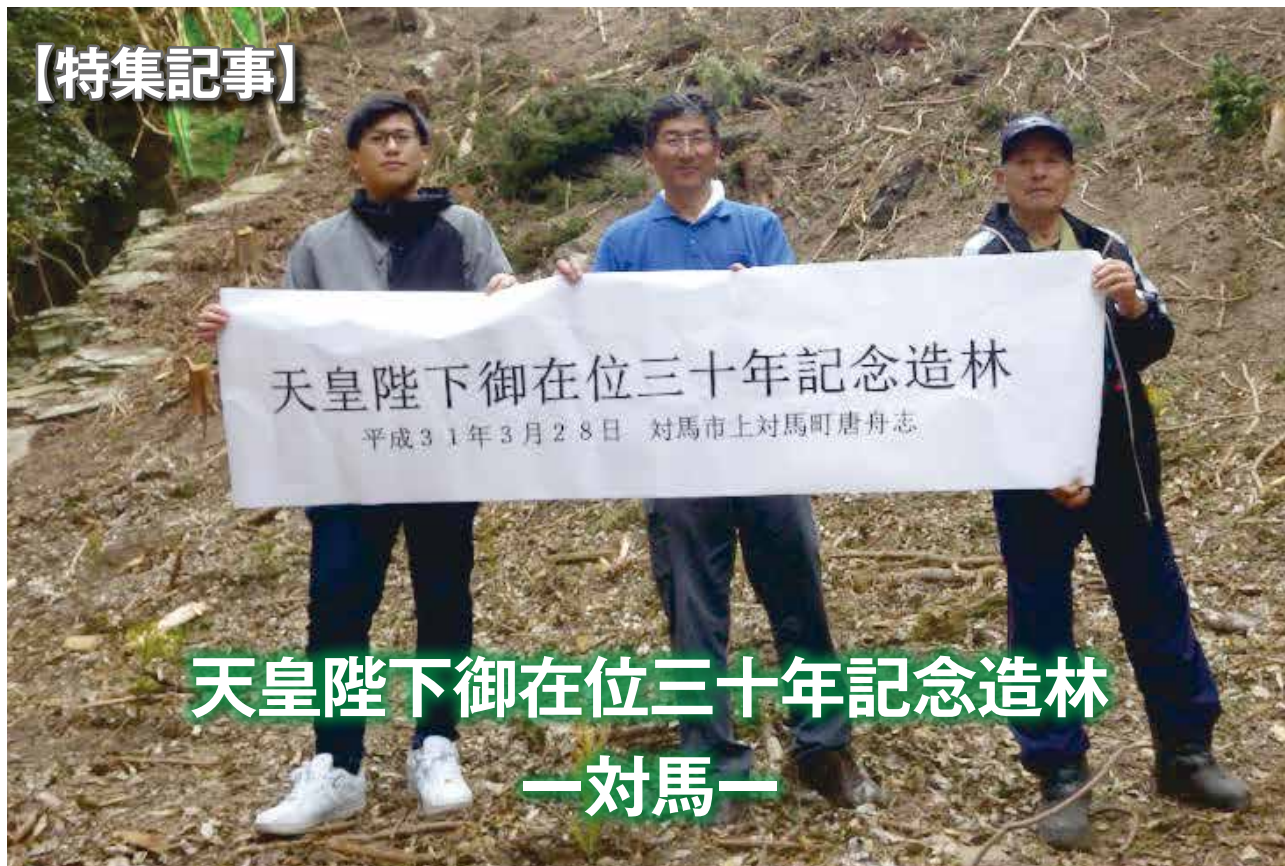
平成 31 年度計画件数 2 件

(林政課 計画調整班)



参考資料 - ① 間伐面積の推移 (ha)

【特集記事】



天皇陛下御在位三十年記念造林 —対馬—

写真左から園田^{かずふみ}一史さん、^{しげる}茂さん、^{いきお}生男さん

親子三代による記念造林

3月28日（木）、対馬市上対馬町唐舟志において、「天皇陛下御在位三十年記念造林」がありました。

長崎県は、天皇陛下の御在位三十年という慶事の記念行事として、記念植樹の推進をしていたところ、対馬森林組合の営業指導部長をされている園田茂さん（上写真中央）に賛同してもらいました。

茂さんの父である生男さんと息子の一史さんも参加し、親子三代で植樹をしました。

今回の植樹をした理由

「天皇陛下が即位されてから30年という節目の年に、息子が対馬に帰ってきた。山の経営も自分の代までと思っていたが、息子にも森林に興味を持ってもらいたいと思い、今回植樹活動を行った。

また、スギやヒノキの花粉の大量飛散が社会問題となっている。森林組合の職員として、少花粉のスギとヒノキのコンテナ苗を森林所有者に勧めるために、自分の山でも植えようと考えた。」と茂さんは話してくれました。

（対馬振興局林業課）



ヒノキのコンテナ苗を植える園田茂さん



記念造林標柱

林業普及だより

県北地区森林・林業の活性化に向けて

県北地域は佐世保市・平戸市・松浦市・佐々町・小値賀町からなり、人工林は約16,000 ha(人工林率 40%)を有していますが、所有形態が零細で個人有林の森林整備が少ないのが課題です。

森林組合の広域合併

H30年度に佐世保市森林組合・北松森林組合・松浦市森林組合の合併が決まり、今年度「長崎北部森林組合」が誕生する予定です。

合併のメリットを最大限に活かすため、人材育成や経営強化に資する取り組みをサポートしていくことが普及の最重要テーマです。

森林経営計画の推進

森林組合等林業事業体が安定的な林業収入を得られるよう計画的な搬出間伐・主伐再造林を目標に「森林経営計画」の策定支援を行います。特に所有規模の小さい個人有林の森林整備を図るため市町有林と一体となった「森林経営計画」の策定を目指します。

このため、市町有林の森林組合等への森林経営委託を推進します。



人材確保の支援

林業従事者の高齢化に伴い、将来、林業労働力の不足が懸念され、人材確保が急務であることから、効率的な求人を支援します。

また、新規採用者への実践的な実務研修の開催を予定しています。



地域資源の掘り起こし

これまで、活用の少なかった地域資源の掘り起こしや新たな森林資源の導入も検討していきます。平戸市を中心に広く存在している天然広葉樹のバイオマスとしての資源活用や成長が早い早生樹等の植林の現地検討や松浦市の天然ツバキ樹林や小値賀町の姫の松原等の優れた森林景観の活用など検討します。



県北の林業普及

県北地区には3名の林業普及員が配置されています。地域のニーズをふまえた効果的なサポートをするため積極的に現地に出向きたいと思います。

(県北振興局 林業課)

地方だより

ハランの生産に向けて（東長田生産森林組合）

諫早市長田町を中心に活動を行っている東長田生産森林組合は、平成24年度から、生産森林組合所有林にて、ハランを栽培しています。（総栽培面積 約0.1ha）ハランは、県内で中山間部における重要な林産物であり、施設費用が要らず、管理も軽作業で済むというメリットもあるため、近年ますます生産が増加傾向にあります。管内では、東彼杵郡、長崎市にてハラン切り葉の生産を行っており、出荷されたハランは、生け花や料理などに幅広く使われています。東長田生産森林組合においても、短期収入による組合運営費等の確保のため、生産森林組合内で「ハラン研究会」を立ち上げ、ハラン生産に向けて熱心に取り組んでいます。



生け花や料理等幅広く使われているハラン

ハラン成長促進に向けた取り組み

しかし、現状として、ハランの栽培が思うようにいかず、また、筋状に斑の入ったシマハランは、定植後年数が経過すると斑が入らなくなる青葉化現象が進んでいます。

そこで、平成30年12月12日に、東長田生産森林組合と県央振興局、農林技術開発センターを交えて、現地研修会を開催しました。

参加された、組合長、同組合ハラン研究会と意見交換を行い、肥料、保温対策として、

4パターンの試験区（鶏糞施肥のみ・鶏糞施肥＋不織布設置・不織布設置のみ・未処理）を設置し、試験区内で葉の成長量（長さ）を比較後、最も効果がある方法を圃場全域に適用することとなりました。

研修会の後日、平成30年12月21日にハラン成長促進対策試験地の設置作業を行いました。不織布を張るための支柱は、東長田生産森林組合が竹を加工して用意していたが、計2箇所の栽培地ごとに4パターンの試験区を設置し、試験区内のハラン毎葉を対象に、葉柄、葉、葉幅の測定を実施しました。



不織布の設置作業

現在は、ハラン研究会を中心に見回りを実施しており、試験区の維持管理等を行いつつ、5月に再度測定し、経過を見ることとしています。

今後の取り組み

東長田生産森林組合のハラン栽培圃場では、西日に強く照らされるため、夏までに寒冷紗を張り、日照対策を行う予定です。

ハランの栽培は、県内外から視察に訪れるなど、注目されています。ハランの更なる増産、生産者の所得向上を目指し、支援していきたいと考えています。

（県央振興局 林業課）

地方だより

【島内初！】壱岐の搬出間伐

平成30年度、壱岐市内の県営林で、壱岐で初めてとなる搬出間伐に取り組みました。受注者は壱岐市森林組合で、初の搬出間伐と作業道開設となるため、事業の実施前に研修を受けていただくなど、施業に取り組みやすいように準備を進めました。

実際の作業では、グラップルやフォワーダ等搬出用の林業機械を持っていないため、クレーン付トラックを作業道に入れて搬出しましたが、降雨後は作業道に入れず、なかなか効率よく作業を進めることが困難で、多くの課題が残りました。

しかし、現場の作業員の方々は、今までは植栽、下刈り～切捨間伐の保育作業の経験までしかなかったため、材を出荷することができ、より「林業」をやっているという実感や達成感を得られたようです。

方々にご指導、ご協力をいただきました。この場をお借りしてお礼を申し上げます。



出荷状況：土場からの積み込み



作業状況：材の積み込み

平成30年度の搬出間伐の事業量は面積1.47ha、森林作業道310m、搬出材積46m³（ヒノキ：3m、4m材388本）で、3月中旬に売払いが完了しました。土場での材の引渡しを行いました。

丸太の島内需要が無いので、島外へトラック便での出荷となりました。

今回の事業の実施にあたっては、多くの

今後について

壱岐市の山林はまだ保育間伐が主体ですが、標準伐期齢を超えた林分も増加しつつあります。今まで手入れしてきた人工林を無駄にしないためにも、昨年の作業で確認できた課題の解決に取り組み、より効率的な作業と収益性の高い採材ができるよう協力しながら取り組んでいきたいと思っております。



出荷状況：積み込み完了

（壱岐振興局 農林整備課）

NPO 法人 おおむら里山村づくり委員会



加古治男理事長と貴美子夫人（会計担当）

沿革

おおむら里山村づくり委員会は、平成 22 年に大村市で産声をあげました（平成 24 年 12 月特定非営利活動法人登記）。

市内にあった旧県立大村園芸高等学校が、普通高校大村城南高等学校として生まれ変わったために使われなくなった実習地 5.5ha を平成 24 年県から借り受け、「徳泉川内里山村」を運営し、森林プログラム以外にも芸術分野、農業分野、教育分野など非常に多岐にわたるコンテンツを、市民向けに提供しています。

長年放置され、イノシシやアナグマの格好の棲み処となっていた場所が、当委員会の活動により、棚田の景観と大村湾を見下ろす憩いの場となりました。

会員は、現在 82 名、うち 12 名は東京や神奈川などの大都市圏在住の方で、何らかの形で里山村づくりの活動に接し、その方向性に賛同した方々です。

主な施設と活動

1. 農園：もともとミカン栽培の実習地であったところを再び開墾して、貸農園とし、現在 5 グループが利用。他は委員会で耕作し、芋作り、そば、菜種油作り体験などのサービスに活用しています。

2. 白炭窯：長野県で白炭の製炭法を学んだ会員の手で、冬季には炭焼きが行われるほか、炭焼き教室を開催しています。



白炭窯で炭焼き教室

3. ピザ窯：前出の会員の指導により、白炭窯の築窯技術を応用し、会員と市民が協力して作られました。地元の子ども会や、子育てグループなどが、イベント利用しています。



地元子ども会でピザづくり

4. 東屋：会員で手作りした大型の東屋で、囲炉裏を備え、「草木染教室」「森のアート教室」などの屋内型プログラムとして広く利用されています。



東屋で開催された「森のアート教室」

5. 森の音楽堂：森林環境税「ふるさとの森づくり事業」の補助により、会員手作りで建てられました。地元の演奏家を集めた音楽会を開催しています。



菜の花コンサートの様子

6. しいの木のみみつ基地：宗像市を参考に県内で初めて定期開催されているプレーパークに集う子ども達が自分達の手で作りました。大人は立ち入り禁止となっています。



ひみつ基地で遊ぶ子ども達

協賛の輪

設立当初から、土地の借用に際し、大村地区地域活性化事業協議会と共同歩調をとっています。平成27年の秋から毎年九州電力長崎支社の協賛を受け、「こらぼらQでん」「どんぐりの森づくり」を共催しています。また武蔵野美術大学とは、自主製作映画「スナメリの詩」製作、国際学生映画祭開催での協力や「森のアート作品づくり教室」事業で提携しました。また、昨年度から、かんぽ生命保険寄付プログラムにより植物ガイドブック作成や森の音楽堂の壁画制作等を行いました。

(NPO 法人 地域循環研究所)

特定非営利活動法人
おおむら里山村づくり委員会

〒856-0035 長崎県大村市武部町460-3

Tel・Fax：0957-52-3476

Mail：satoyama@octp-net.ne.jp

ホームページ

<http://www.octp-net.ne.jp/~satoyama/index.html>

九州・四国地域の若齢造林地におけるシカ被害対策の高度化

はじめに

平成 28 年度の本州以南のニホンジカの生息頭数は約 272 万頭と推定され、生息分布域も広がっています。それに伴い、シカの食害による森林の更新阻害や下層植生の衰退、ひいては土壌浸食等の問題がおきています。

本県でも対馬や五島列島において、シカによる食害や、植林木への角こすり被害等がおきています。

平成 30 年度、「九州・四国地域の若齢造林地におけるシカ被害対策の高度化」という課題で、森林総合研究所等と協力して調査を行いましたのでご紹介します。

対馬での調査

この課題は、防鹿柵を使わないシカ被害防除技術を整理・検証することを目的としており、「ツリーシェルター（以下 TS と略）」と呼ばれる植栽時の単木保護管の効果や「大苗植栽」によるシカの食害被害回避の可能性を調査しています。

センターでは、対馬で平成 11 年に TS が施工されたヒノキの植栽地の現状について調査を行いました。その結果が表 1 となります。



ツリーシェルター施行後

調査した 198 本のうち、TS が残っていたものが 103 本、全壊と半壊をあわせて 95 本と、19 年が経過しても約半数が残っていました。

しかし、TS が残っていたものの、TS のなかでヒノキが枯損してしまっていたものが 30 本ありました。また、樹形異常がひきおこされていたものが 40 本あり、TS は植栽木の生長に影響を及ぼすようです。

表 1. 植栽後19年経過したツリーシェルター施工木の状況

ツリーシェルターの状況	本数	残存木の状況					平均胸高直径 (1.4m高)	平均樹高 (m)
		枯損 (本)	シカ被害有 (本)	樹形異常		二等		
				ts倒れ	根曲がり・曲がり			
全壊	40		7	3	1	15.7	9.4	
半壊 (破れ等)	55		1	11	3	14.2	8.6	
残存	103	30	5	17		8.6	6.3	
	198	30	8	5	31	4	38.5	24.3



施行地の林内現状

しかし、TS を施工していない場合はシカによる食害で植栽木が全滅していた可能性もあります。TS は防鹿ネットのような見回りや補修の手間が省けるため、施工全体を考えた場合、シカ被害防除として、有効な手法となります。

今後は、TS を施工していた植栽木の樹幹解析を行い、どのように生長してきたのかを調査するとともに、森林総合研究所等と情報交換しながら有効なシカ被害対策について検討していく予定です。

(農林技術開発センター)

紹介コーナー 社会福祉法人つばさ会 えぼし学園



佐世保市にある社会福祉法人つばさ会 障害者支援施設えぼし学園は知的障害児施設と知的障害者更生施設の併設施設です。適切な環境のもとに、生活訓練や作業訓練を通じて社会参加への独立自活に必要な知識技能を養うことを目的としており、木工や手芸などの作業を行い、様々な商品を作っています。

木工製品については、材料となる廃材を佐世保市内の業者より入手し、それを加工利用しています。商品は木目や木の特性を生かすというのがコンセプトで、デザインから加工まですべて自分たちで行っています。材料に使用する木は、ヒノキで廃材利用という点で環境に優しい商品です。完成した商品の販売は、佐世保市の愛宕まつりや佐賀県有田市の有田陶器市などに店出して販売しています。

社会福祉法人 つばさ会
障害者支援施設
えぼし学園

〒 857-0114
佐世保市小舟町 1756
電話：0956-25-2232



伊万里木材市況

【ヒノキ】

平成31年4月現在

長さ	径級 cm	等級	高値 (円/㎡)	現在出荷量	現在引合	需要見通
4m	16~18	直	16,100	多い	多い	普通
	16~18	小曲り	14,500	多い	多い	普通
	20~22	直	16,300	多い	多い	普通
	20~22	小曲り	14,700	多い	多い	普通

【スギ】

平成31年3月現在

長さ	径級 cm	等級	高値 (円/㎡)	現在出荷量	現在引合	需要見通
4m	18~22	直	13,500	少ない	多い	多い
	18~22	小曲り	12,000	少ない	多い	多い
	24~26	直	13,500	少ない	多い	多い
	24~26	小曲り	12,000	少ない	多い	多い

※情報・お問い合わせは、伊万里木材市場 電話 0955-20-2183 まで

企業の森 長崎トヨペット(株)・ネットヨタ長崎(株)



写真左から長崎トヨペット(株) 溝口常務、ネットヨタ長崎(株) 市川社長、長崎トヨペット(株) 馬場社長、「緑の大使」岡田さん

「企業等による県営林の整備に関する協定」締結式(3期目)

平成31年4月17日(水)、長崎県庁において長崎トヨペット(株)とネットヨタ長崎(株)の第3期目となる「企業等による県営林の整備に関する協定」の締結式が行われました。

式には長崎トヨペット(株)馬場社長、ネットヨタ長崎(株)市川社長、上田副知事の他、国土緑化推進機構「緑の大使」ミス・インターナショナル2019年日本代表の岡田^{ともみ}さんが出席し、上田副知事より両社長へ木製の協定書が授与され、緑の大使から上田副知事へ「ヒノキ」の苗木が贈呈されました。



ヒノキの苗木贈呈

今回の協定では、これまでに活動してきた長崎市長浦町の県営林穴似田団地(14.88ヘクタール)に加えて長崎市琴海戸根町の県

営林戸根団地(6.69ヘクタール)で森林保全活動を新たに5年間行います。

穴似田団地では間伐を行い、戸根団地では更新伐を行い、ヒノキ等が植樹されます。

企業の森・「トヨペット・ネット ハイブリッドの森」

企業の森とは、手入れが遅れている森林を企業が森林所有者と長崎県との協定に基づいて、森林保全活動(整備等)を行うことです。

両社は平成21年度から、長崎県と「企業の森」の協定を結び、県有林穴似田団地のヒノキ林を「トヨペット・ネットハイブリッドの森」と名付け、これまで10年間にわたり森林保全活動を行ってきました。今後も森林環境保全活動や県産材利用促進の積極的な取り組みに期待が寄せられています。

(NPO 法人地域循環研究所)

長崎の林業 5月号 第764号

編集・発行 長崎県林政課

住所：長崎県長崎市尾上町3番1号

電話：095-895-2988

ファクシミリ：095-895-2596

メールアドレス：

s07090@pref.nagasaki.lg.jp